

## 2016 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

小林 裕 章 (慶應義塾大)

この度、私は2016年3月11日から15日にかけてドイツのミュンヘンにて開催されたThe 31st Annual EAU CongressにJUA/EAU Resident Programmeの派遣員として参加させて頂いた。国際学会としてはAUA Annual Meetingには参加経験があるが、EAU Congressは初めての参加であり派遣が決定してから出発までの数カ月間は非常に楽しみで待ち遠しかった。

会期中はJUA/EAU Joint SessionやOpening Ceremony, Resident Dinnerといった国際交流に重点を置いたプログラムに参加し、貴重な経験をすることができた。JUA/EAU Joint Sessionでは前立腺癌、腎細胞癌、排尿障害の3つの大きなテーマに基づき、JUA・EAU双方から数名の演者が最新のトピックスを交えた講演を行い、積極的な質疑応答がなされていた。学会を通して各種ESU courseやHands on training, Live surgeryなど教育的なプログラムも多く、我々若手泌尿器科医にとっては多くのことを学べる貴重な機会であったと感じた。私自身は前立腺癌の診断・治療に興味を持っており、新規バイオマーカーの模索やmp MRIの活用、手術・放射線・薬物療法の各国の現状など様々な知見を得ることができ、大変有意義であった。

同じくResident Programmeに選出された県立今治病院の渡辺隆太先生、名古屋市立大学の飯田啓太郎先生とは滞在期間中常に行動を共にし、会場内では互いの経験や知識を交えたdiscussionを、会場外ではレストランやホテルの部屋で寝る間も惜しんで語り合った。日常診療を行う中では、違った環境で働く同世代の泌尿器科医との交流は少なく、彼らの存在、彼らの価値観はとても刺



会場入口にて (左から飯田先生、著者、渡辺先生)

激的だった。この派遣がなければ知り合うこともなかったかもしれない2人の同志と派遣を通じて深い絆を作ることができたのは今後の自分にとって大きな財産となると思う。

3月のミュンヘンは最低気温が0度を下回る日も多く日本よりずっと寒かったが、中心部の歴史ある街並みと一歩ミュンヘンを離れると辺り一面に広がる大自然とのコントラストがとても印象的であった。今回、このような貴重な経験をさせて頂く機会を与えてくださったJUA, EAUの関係者の方々にこの場を借りて心より感謝申し上げます。若手泌尿器科医にとって貴重な経験を得られる本プログラムが今後も継続されていくことを願っております。